

「虫の季節」

実りの秋を迎えました。

先日、新嘗祭献穀田の御抜穂式に出席しました。献穀田とは、11月に宮中で行われる新嘗祭に献上されるお米を作る田んぼで、毎年全国各地から選ばれた農家の方が田植えから収穫、精米、そして皇居に献上することになります。

今年は穴水町から山中の中田さんの田んぼが選ばれ、5月の御田植式、今回の御抜穂式ともに好天の中の神事となりました。中田家におかれては、実際の作業に加え、様々な準備、対外的な対応など、親戚総出の大仕事で、気苦労が絶えなかったと思います。今年は大雨や台風による影響も少なく、無事収穫することが出来たことを嬉しく、中田家の皆様にはご苦労に対する感謝と敬意を表したいと思います。後は11月に皇居に持参する大仕事が残っています。最後まで大役を果たされることを確信しています。

御抜穂式の式典の際、中田さんの挨拶で印象に残ったことがあります。「今年はカメムシが少なく助かった」そうです。稲作農家にとって、カメムシは厄介者です。農家に限らず一般の家庭でもカメムシに悩まされている方は多いのではないのでしょうか。

私が子どものころ育った家は古く隙間だらけの家だったので、年がら年中カメムシが家に入り込んで来ていました。そのカメムシを刺激しないように始末するのが日常でした。カメムシに限らず、蜘蛛、蛾、蚊、ムカデ、名前も分からないようなものまで、色んな虫が入り込んで

来ました。時にはカブトムシや蛙までも。

昔ほどではないですが、今でも締め切った家に、いったいどこから入ってきたのか現れまします。先日も家の中で悲鳴が響き渡りました。驚いて居間に行くとテーブルの上に小さなムカデがいました。子どもたちは大騒ぎです。こんなことも田舎で生まれ、暮らす者にとっては付き合っていかなければならないものだと思っています。

昨日も朝、身支度を整え、出勤しようと玄関を出たところで、顔に蜘蛛の糸が纏わり付いてきました。朝から一気にテンションが下がってしまいました。

皆様も玄関周りの蜘蛛の巣はマメにお掃除されることをお勧め致します。

Mayor Column Vol.18

町長コラム

筆 おもむくまに

穴水町長 吉村 光輝

